

A—7 飢餓の肝機能検査成績に及ぼす影響

日女大家政 ○野崎 幸久
青島 郁子

1. いわゆる肝機能検査法は、臨床上最も繁用される検査法であるが、栄養状態とくに飢餓時の肝機能検査成績に及ぼす影響をみるために以下の実験を行った。

2. 実験動物には、ラットを用い5日間飢餓状態とし水のみ与えて、この間の肝機能を検査した。肝機能検査法としては、血清総たんぱく量 (TP), 血清たんぱく分画 (電気泳動法), 血清トランスアミナーゼ (GOT) およびアルカリ性フォスファターゼ (AP) 活性を測定した。また肝臓のGOT, AP活性を測定し組織的検索も行った。更に飢餓時に、ビタミンB₆または必須アミノ酸液の注射をし、或は水の代わりに15%アルコールを与えた場合の影響についても検査した。

3. 飢餓群では、対照群にくらべ血清TPは上昇し、血清GOTも上昇の傾向を示したが、血清APは低下した。アルコール投与群では、血清TPは不変で、GOTは早期にやや上昇したが、APでは5日目に対照群と同じになったほかは飢餓群とほぼ同様の成績を得た。アミノ酸注射群、B₆注射群では、飢餓群に比しAPは変化がなかったが、GOTでは影響が認められた。なお組織像をみると、飢餓群ではグリコーゲンの消失と肝細胞萎縮を、アルコール注射群ではこれに加えて肝細胞内に脂肪滴の出現を認めた。